

第2学年ホームルーム活動学習指導案

期 日 平成21年9月29日(火)第5校時

場 所 熊本県立熊本農業高等学校 畜産科2年教室

指導者 教諭 今田 隆恵

1 単元名

「情報モラルを考える」～情報社会で賢く生きるために～

2 単元について

(1) 単元のねらい

情報化社会の急速な進展に伴うコミュニケーションの変化により、ネットいじめなど子どもたちのインターネットや携帯電話に関する問題が増加している。本単元では、情報化の「影」の部分を理解することがねらいではなく、情報化社会やネットワークの特性の一側面として影の部分を理解した上で、よりよいコミュニケーションや人と人との関係づくりのために、今後も変化を続けていくであろう情報手段をいかに上手に賢く使っていくか、そのための判断力や心構えを身に付けさせることをねらいとする。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。

ホームルーム活動では、生徒一人一人が人間としての在り方や生き方について幅広く探求し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図るとともに、社会の成員として必要とされる資質や能力を培っていくことが求められている。情報機器による権利侵害の加害者・被害者にならず、他者への思いやりを深め、豊かな人間関係づくりを模索するという意味で、年間を通じてホームルーム活動で取り組まれる人権教育の一環とする。

(3) 本単元に係る生徒の実態は次のとおりである。

- 男子16名、女子21名の計37名のクラスであり、明るく素直な生徒が多い。
- 37名中36名の生徒が携帯電話を持っており、平成20年12月調査の「平成20年度熊本県公立高等学校いじめアンケート」では、16名の生徒が1日3時間以上携帯電話を使っていると答えており、9名が高校に入学して「学校裏サイト」に書き込みをしたことがあると答えている。また、ブログ保持者21名、プロフ保持者13名で、現在はさらに増えていると予想される。
- 今年7月の学級内の調査では、14名の生徒が個人が特定できる写真をサイトにアップロードしたことがあると答えており、その全員が罪悪感を持っていなかった。逆に20名の生徒が自分の写真をサイトにアップロードされたことがあると答えており、そのうち18名がそのことに関して「何とも思わなかった」と答えている。
- 表現力豊かな生徒がいる反面、人前で自分の思いを表現することが苦手な生徒、文章化するのが苦手な生徒が数名いる。
- 朝夕の当番実習や教科「総合実習」でともに身体を動かしているためか、クラス員の仲はよく、共同作業を協力して行う雰囲気はある。

(4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- リーダーには意見が数多く出る雰囲気作りを事前に指導し、全員に発言させるようにする。
- 日常生活の出来事や行動から具体的に想像させ、表現させる。その際、建て前ではなく本音を出させる。
- デジタル化の特性とネットワーク化の特性を基に考えさせる。

〈人権教育の視点〉

口頭での発表が苦手な生徒には紙面で、書くことが苦手な生徒には口頭で自分の意見を述べさせる。どんな意見も否定せずに認める。グループ内にも他者の意見に耳を傾ける雰囲気ができるよう、事前に班長に指導しておく。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

インターネット上の情報は鵜呑みにせず、「まずは立ち止まって考える」という視点を持たせる。情報発信の背後にある発信者の意図を推測し、根拠を見いだして嘘や不確かさに気づき、正しい情報を選択できる力を身に付けさせる。また、他者の思いを想像し、他者を傷つけずに自分の気持ちを表現する技術（アサーティブネス）を身につけさせる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	よりよいコミュニケーションや豊かな人間関係づくりのために、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成する。
関心・意欲・態度	設定場面に興味を持ち、自らの体験に引きつけながら積極的に話合いに参加しようとする。
思考・判断	○設定場面の裏に潜む危険性や被害を想像することができる。 ○被害者の思いを想像することができる。
技能・表現	○自分の意見を積極的に表現している。 ○他人の意見を否定せず、最後までじっくり聞くことができる。 ○他グループの発表を、自分の考えと照らし合わせながら聞くことができる。 ○出された意見を人前で堂々と発表することができる。
知識・理解	○情報技術の特性から危険性や被害を想像することができる。 ○人権尊重の視点から被害者の思いを想像することができる。

4 指導・評価の計画（特別活動）

計画	学 習 活 動	指導上の留意点 ※言語活動とその留意点	評価項目（方法）
SHR	○自分にとって携帯電話がどんな存在か考え、用紙に書く。	・担任の考えを提示し、それを基に考えさせる。 ※自由に記述させる。	【技能・表現】 自分の考えを率直に文章化することができる。 (ワークシート)
SHR	○級友の携帯電話に関する意見を読み、校内での携帯電話の使い方について考え、用紙に書く。	・どの意見も否定しない。 ※自分の意見を明確に分かりやすく記述させる。	【技能・表現】 他人の意見をふまえて自分の考えを文章化することができる。(ワークシート)
SHR	○級友の携帯電話の使い方に関する意見を読む。	・どの意見も否定しない。 ※自分の意見を明確に分かりやすく記述させる。	【思考・判断】【技能・表現】 他人の思いを想像しながら読むことができる。
SHR	○「平成20年度熊本県公立高等学校いじめアンケート」を記入する。	・机間指導をせず、個人が特定できないようにする。	【技能・表現】 自分の考えを率直に答えることができる。
SHR	○いじめアンケートのクラス集計結果の一部を見て考える。	・携帯電話に関する項目のみ紹介する。	【思考・判断】【技能・表現】 自分の位置を考えながらデータを読み取ることができる。
LHR	○熊本県人権啓発ドラマ「メール」のDVDを視聴する。	・感じたことや気付いたことを自分なりにまとめさせる。	【関心・意欲・態度】 身近な問題として視聴する。
LHR	○デジタル化の光と影及びネットワーク化の光と影について考える。	・6班に分け、班内で意見をどんどん出させる。 ※付箋紙に意見を書かせ、最後に班ごとに発表させ、それを板書する。	【関心・意欲・態度】 話合いに積極的に参加しようとする。 【技能・表現】 自分の考えを表現し、相手の意見を聴く。(ワークシート)
LHR 本時	○KYT4ラウンド法を用いて、被害の原因を予測し、とるべき行動を考える。	・班を回り、話合いが行き詰まっている班を支援する。 ※パソコンを使ってまとめ、それを使って発表する。	【関心・意欲・態度】 話合いに積極的に参加しようとする。 【技能・表現】 自分の考えを表現し、相手の意見を聴く。(ワークシート)
SHR	○前時の内容が定着しているかどうかのチェックテストを行う。	・あまりヒントを与えないようにする。	【知識・理解】 危険を予知することができる。 (チェックテスト)

※SHR：ショートホームルーム，LHR：ロングホームルーム

※KYT：危険予知トレーニング

5 本時の学習

(1) 目標

情報社会での人間の行動がどのように影響し、危険や被害につながるか予測する力を身に付けさせる。このことによって、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度を育成する。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 10分	1 本時の学習の進め方を知る。【一斉】 携帯サイトのプロフの危険性を予測させる。 (携帯サイトのプロフをパソコンで検索した画面を提示する)	T どのような危険や被害が予想されますか。 T このサイトのどのような機能が危険性を持っているのでしょうか。	○全員に考えさせ、意見を述べさせる。 ○意見は、予想される危険や被害について、その理由や原因について明確に述べさせる。 ○教師が危険要因や理由を示した予測の例を示す。	パソコン、プロジェクタ
展開 30分	2 各班で話し合う。 【グループ】 (1) 被害を具体的に予測し表現する。 ※危険や被害について、要因や理由を明確に述べて表現する。 (2) 危険のポイントを絞り込む。 (3) 被害を防ぐ対策を考える。 3 話し合った結果を発表する。【一斉】	T どんな危険が潜んでいますか。 T 「～なので～になる」の形で沢山出し合ってみよう。 T 出し合った中で、被害が大きいもの、緊急を要するもの一つに絞ってみよう。 T 絞り込んだ危険を防ぐための手だてをできるだけたくさん出し合ってみよう。	○各班に、話し合うテーマのワークシートを配布する。 ○各班を周り、話し合いが活発になされていない班にはヒントを与える。 ○パソコンへの入力がうまくなされているかチェックする。 ※どんどん言わせて書かせて入力させる。 ○どんな意見も否定しない。 ○パソコンの操作を支援する。	各班にパソコン1台
終末 10分	4 学習したことを確認する。【一斉】	T 今回考えた手法をいろいろな場面に応用して下さい。ちょっと立ち止まって先を予想する(想像する)ことが大切です。	○各班に共通する考え方を示す。	パソコン、プロジェクタ

評価 【関心・意欲・態度】：積極的に話し合いに参加している。【観察】
【技能・表現】：自分の意見をはっきり述べている。【観察】
【思考・判断】：他人の意見にしっかり耳を傾けている。【観察】
【知識・理解】：情報機器の特性から危険性を想像している。【観察】